

PRESTO® A30

6Lのガラス反応容器を +20°Cから+150°Cに加熱運転

目的：

このケーススタディでは、PRESTO® A30と6Lのガラス反応容器を接続し加熱能力試験を行います。
 PRESTO®A30には2mのメタルホースを2本、接続します。
 PRESTO®A30は+20°Cから+150°Cに加熱するプログラムで運転を行います。

環境：

室温	+20 °C
湿度	45%
電源	230 V / 50 Hz

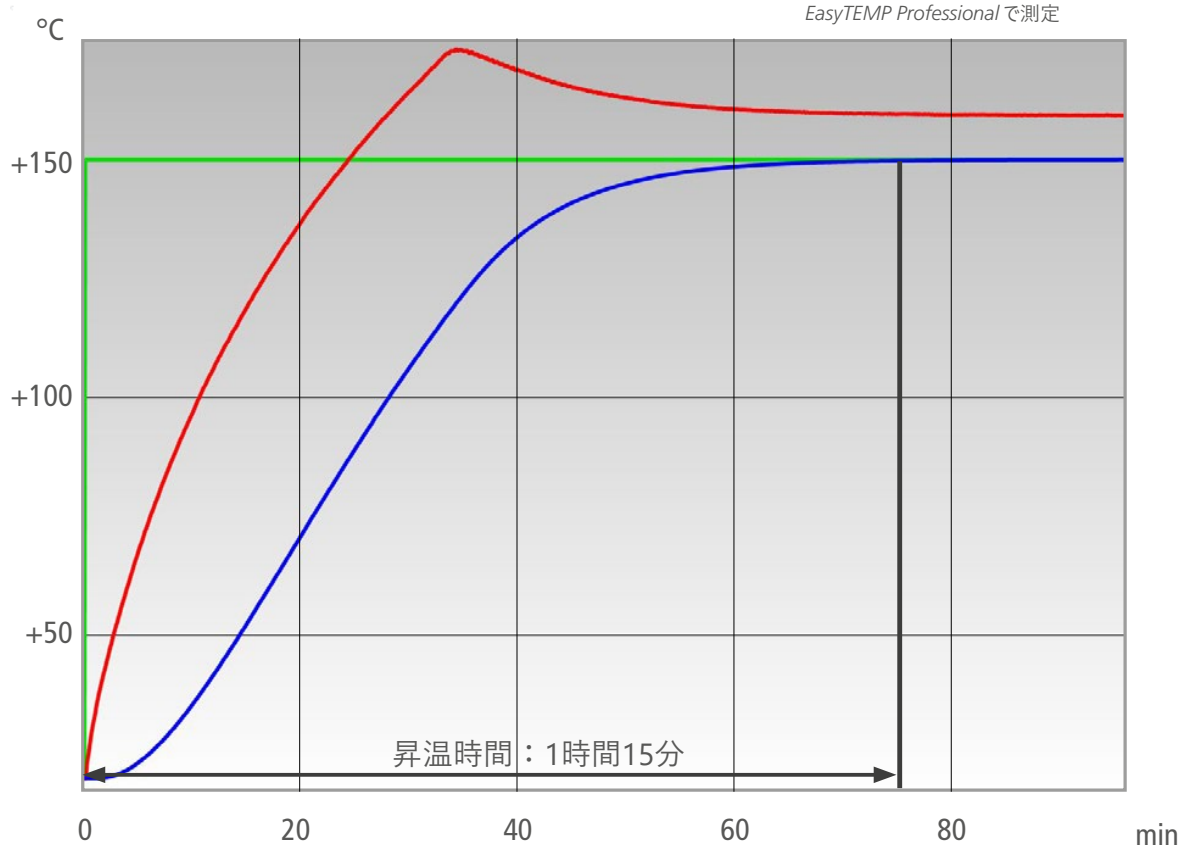
試験条件：

使用機種	PRESTO® A30
冷却能力	+20 °C 0.5 kW 0 °C 0.4 kW -20 °C 0.2 kW
加熱容量	2.7 kW
バンドリミット	設定していません
ポンプ圧	0.5 bar
循環液	ユラボ社製 サーマルHL60
反応容器	6Lガラス製反応容器(QVF) (容器内にはサーマルHL60を5L充填しています)
ジャケット容量	4.5 L
温度制御	外部制御(ICC)



試験結果：

PRESTO® A30の昇温時間はオーバーシュートなしで、+20°Cから+150°Cまで1時間15分でした。



- 設定温度
- 反応容器内の温度
- 反応容器ジャケットの温度

情報：

M+Rインラインセンサーを使用すると循環液の温度表示、温度記録が可能となります。



情報：

無償でダウンロードできるEasyTEMPソフトウェアを使用すれば、パソコンでサーキュレーターを運転することができ、温度曲線グラフを表示することができます。

EasyTEMP

